

高代ネット使い意見交換

能代 探究活動 三島北高(静岡県)と発表会



能代高(宮久夫校長)で15日、1年生がインターネットを通じて静岡県三島市の三島北高の1年生と探究活動の成果を発表し合った。各校の生徒たち

ネットを介し能代高と静岡県の三島北高の生徒が発表会を実施(能代高で)

Classi(本社東京)が両校に呼び掛け、テレビ会議システムと、同社による学校教育のICT(情報通信技術)活用を支援するクラウドサービスを活用して行った。

能代高では同サービスを昨年度から導入。今年度は1、2年生が活用して日々の学校での活動記録を各々のスマートフォンで保存するなど、教育に役立てているという。この日は同校の1年生16人と、三島北高の1年生11人が参加し、ネットを通じて発表会を実施。能代高は農業と地域包括支援という二つのテーマで発表した。

このうち、農業では、若

者にあつた農業の形、農業離れを防ぐために」と題して発表。専業農家と兼業農家のそれぞれのメリット、デメリットなどを紹介した上で、新しく始めるにはまず兼業農家でその土地の作物を育てるべきだとした。

地や人手を得るために資本が必要となることから、企業型農業であれば融資を受けやすいとし、兼業農家と組み合わせた「兼業農家型企業」を提案。「後継者のいない農家と地元企業が融合することで人手の確保と雇用の創出につながり、若者の

農業人口も増える」と考えられる」と主張した。一方、三島北高はベトナムへの海外研修を踏まえ、河川の水質改善や発展途上国への教育支援などについて4グループが発表。能代高の生徒は積極的に質問していた。

「互いに育った環境などが違うので、校内で発表した時とは違った視点の質問があり、いい刺激になった」、信太祐斗君は「友達と話す感覚で発表でき、自分たちとは異なる捉え方からの指摘で研究不足な部分を知ることができた」と話した。

同校の川尻陽菜さんは